



ごあいさつ

皆様には、平素より私ども「熊谷商工信用組合（くましん）」に格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

当組合は、昭和28年に創業し、今年で66年を迎えることができました。これもひとえに地域の皆様のおかげであり重ねて御礼申し上げます。埼玉県北地域のコミュニティバンクとして地域の皆様と共に歩み、今日の経営基盤を築いて参りました。より多くの皆様に当組合の経営内容や営業実績等をご覧頂き、「くましん」をより一層ご理解頂けるよう、今年度もディスクロージャー誌を作成致しました。

平成30年度の我が国経済は、緩やかな回復が続き、輸出はおおむね横ばいに推移、企業収益

が過去最高を記録する中で設備投資が増加するとともに雇用・所得環境の改善も見られました。しかしながら、米国政権における通商政策に端を発する貿易摩擦によるリスクの高まりなど、海外における政治経済情勢の不確実性により、先行きは不透明な状況が続いております。また、資産運用環境は日銀による金融緩和策の継続により依然厳しい状況のまま推移いたしました。このような経済状況のもと、当組合は3年6ヵ月の第8次中期経営計画書の2年目を迎え、くましんが将来発展するための変革が徐々に成果として実感することができたと感じております。さらに中期経営計画の最終年度を見据えながら全役職員が一丸となり取組んで参ります。

平成30年度決算につきましては、貸出金期中平均残高が2,874百万円増加したものの、市場金利の低下により貸出金利回りが低下し、貸出金利息収入は前期比2.5百万円減の1,055百万円となりました。一方、預け金利息、有価証券利息配当金は合計で前期比44百万円増加の344百万円となり、金融機関本来の収益力を表すコア業務純益は前期比48百万円増加の105百万円となりました。当期純利益につきましても、前期比62百万円増加の137百万円となり、収益の確保が厳しい環境下の中、前期以上の利益確保をすることができました。令和元年度も金融環境は更に厳しいものになると予想しておりますが、今後も役職員全員が改革・改善の意識を持って、これまで以上に注力していく所存であります。

当組合は長年に亘りお客様のご愛顧ご支援を賜り、発展を遂げることができておりますが、地域経済を取り巻く環境は更に厳しいものとなる見込みであり「地域への貢献」「お客様第一主義」「健全にして堅実な経営」「役職員の生活向上」を経営理念として役職員全員が同じベクトルで進んで参ります。引続きのご愛顧ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年7月

熊谷商工信用組合 理事長 **吉田 豊**